

欧州景気概況(2022年10月)

2022年10月4日

調査部 副主任研究員 土田陽介

ユーロ圏景気概況① 景気は拡大している

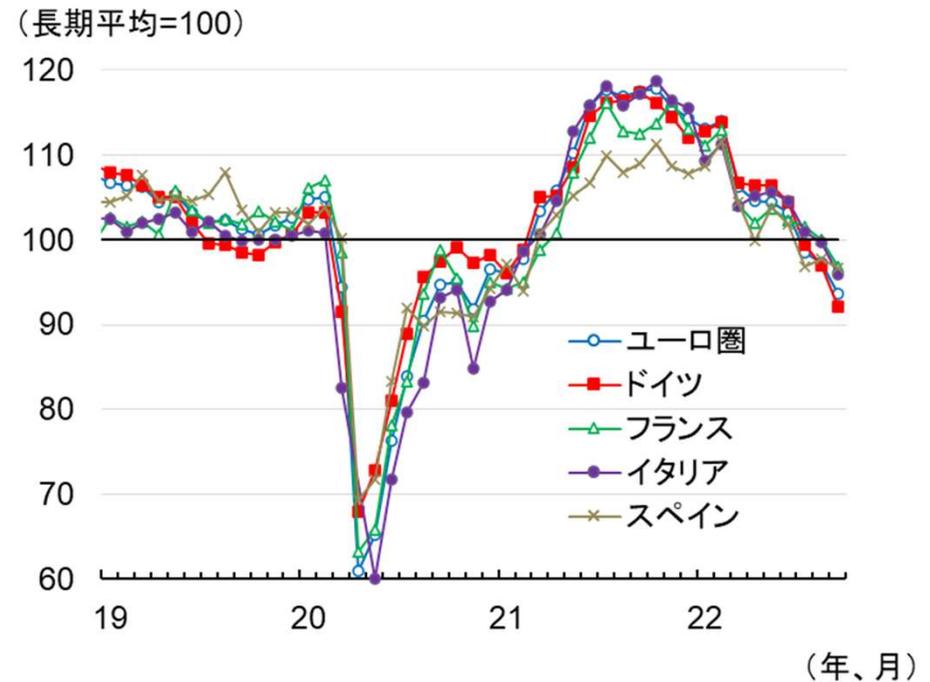
ユーロ圏の4-6月期の実質GDP(確報値)は前期比+0.8%と、1-3月(同+0.7%)から増勢が加速した。3四半期ぶりに増加した個人消費や再び増加した総固定資産形成が成長率を押し上げた。もっとも景気の方角を示す景況感指数は、最新9月が93.7と7ヶ月連続で低下しており、景気の悪化を示唆している。

実質GDP



(出所) 欧州連合統計局(ユーロスタット)

景況感指数



(出所) 欧州委員会ECFIN

ユーロ圏景気概況② 生産は横ばい

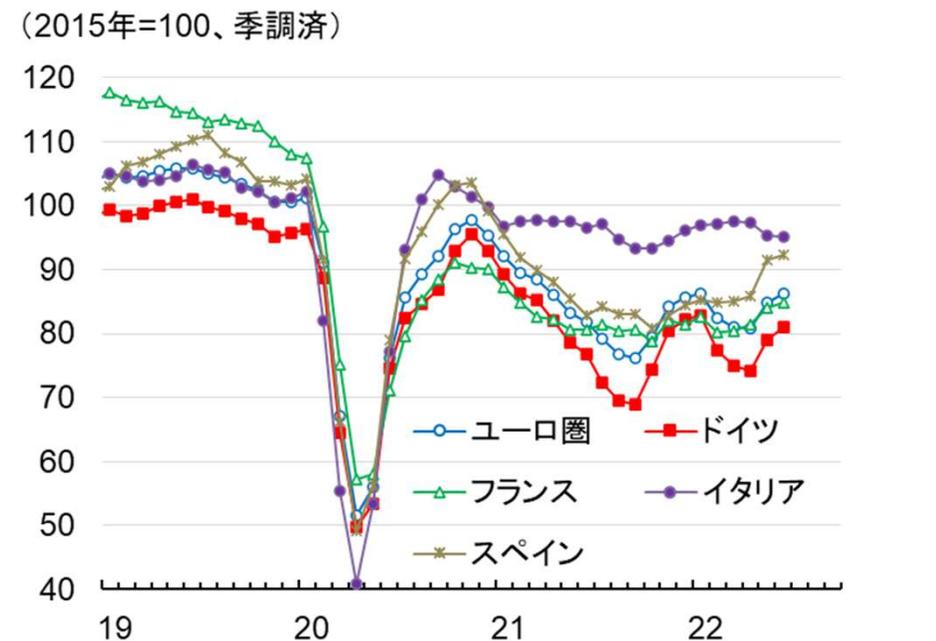
ユーロ圏の7月の鉱工業生産は前月比▲2.3%と急減し、均した動きも横ばい。中間財、資本財、耐久財が不調だった。主要国の自動車生産台数は、イタリアを除いて持ち直しが続いている。

鉱工業生産



(注) 灰色線は3ヶ月移動平均
(出所) ユーロスタット

自動車生産台数(鉱工業生産ベース)



(注) 3ヶ月後方移動平均
(出所) ユーロスタット

ユーロ圏景気概況③ 消費は足踏み

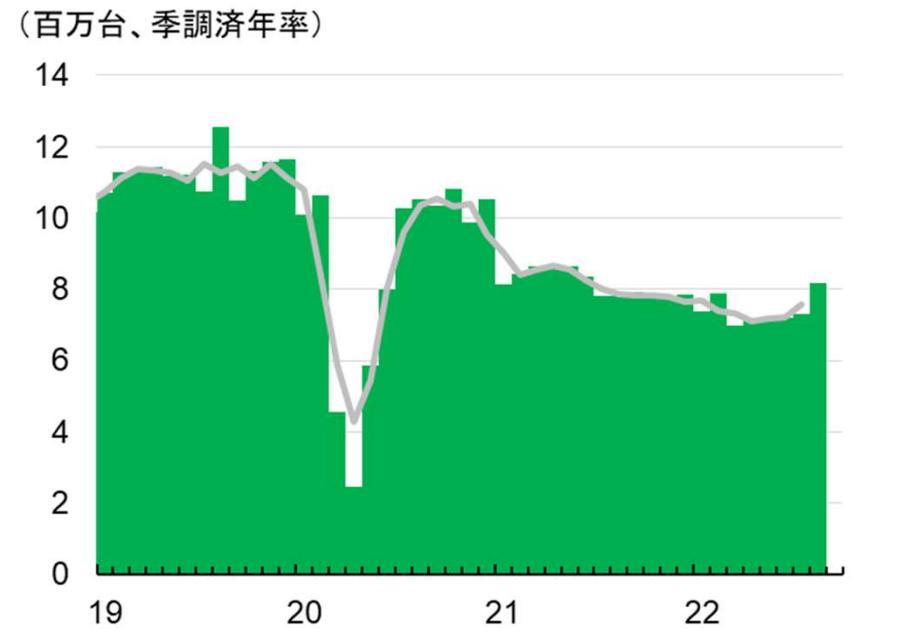
ユーロ圏の7月の小売数量は前月比+0.3%と再び増加したが、均した動きは下向き。翌8月の新車販売台数は前月比+11.9%の年率817万台と堅調、均した動きも上向きに転じた。供給制約の緩和が新車登録台数の増加につながった模様。

小売数量



(注) 灰色線は3ヶ月移動平均
(出所) ユーロスタット

新車販売台数

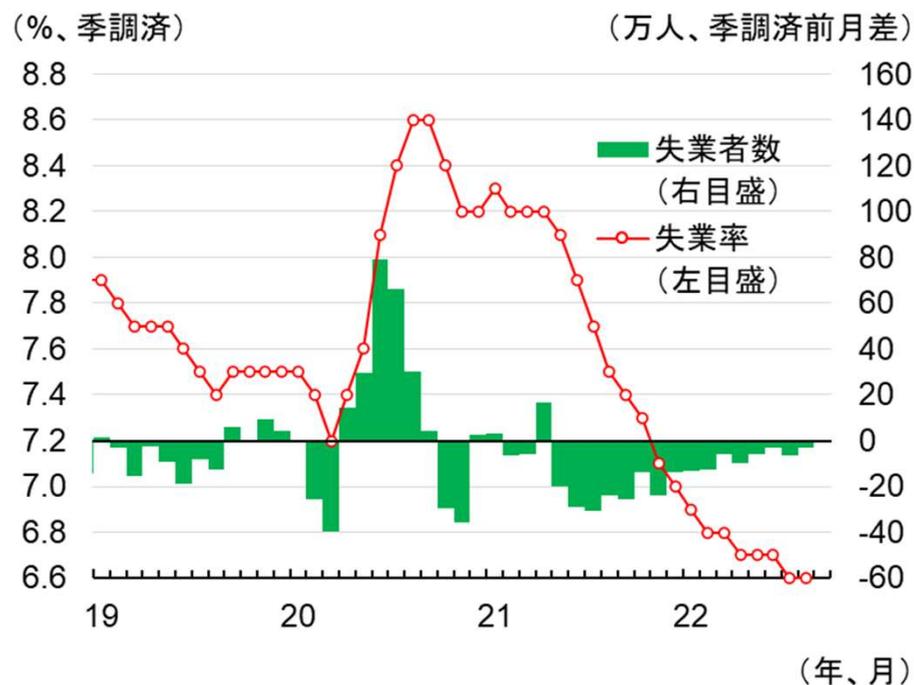


(注) 灰色線は3ヶ月移動平均
(出所) 欧州中央銀行(ECB)

ユーロ圏景気概況④ 雇用は改善

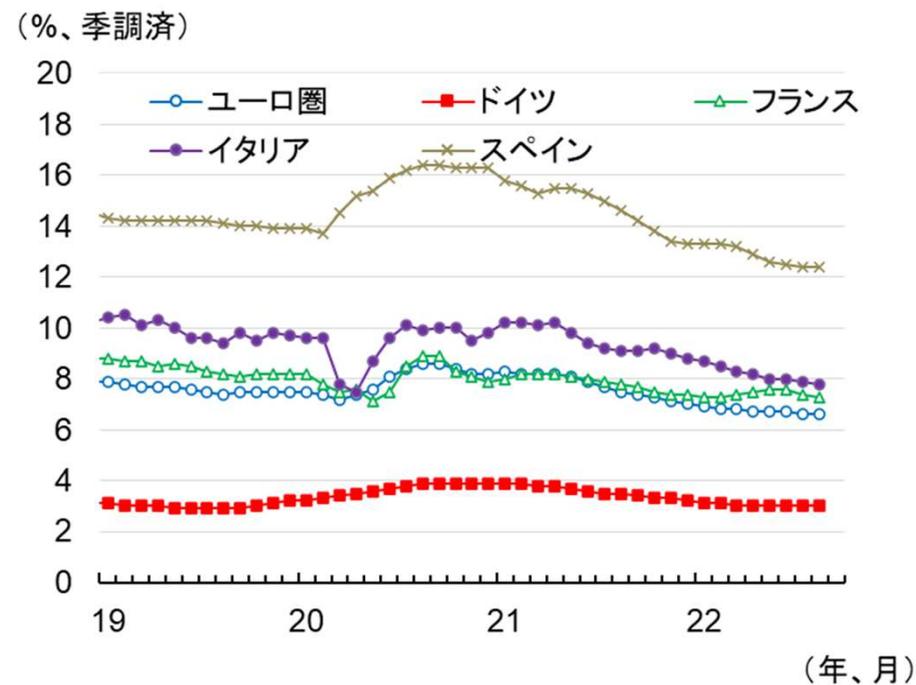
ユーロ圏の8月の雇用統計では、失業率が6.6%と前月から横ばい、失業者数も前月比3.0万人減と、雇用は改善したがそのテンポは鈍化した。主要国別に失業率をみると、いずれも下げ止まったか下げ止まりつつある。

失業率と失業者数



(出所)ユーロスタット

主要国別失業率

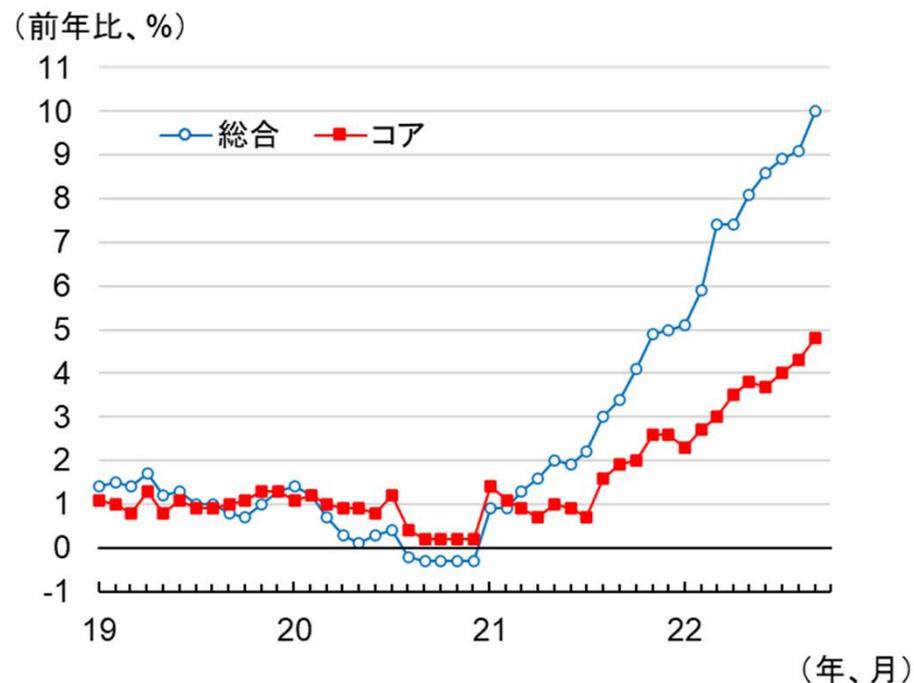


(出所)ユーロスタット

ユーロ圏景気概況⑤ 物価はインフレが加速

ユーロ圏の9月の消費者物価(速報値)は前年比+10.0%と、インフレが加速した。先行指標である生産者物価(建設除く総合)は7月時点で前年比+37.9%と、3ヶ月ぶりに伸びが加速した。うちエネルギー価格も同+97.2%と4ヶ月ぶりに上昇幅が拡大した。

消費者物価



(出所)ユーロスタット

生産者物価

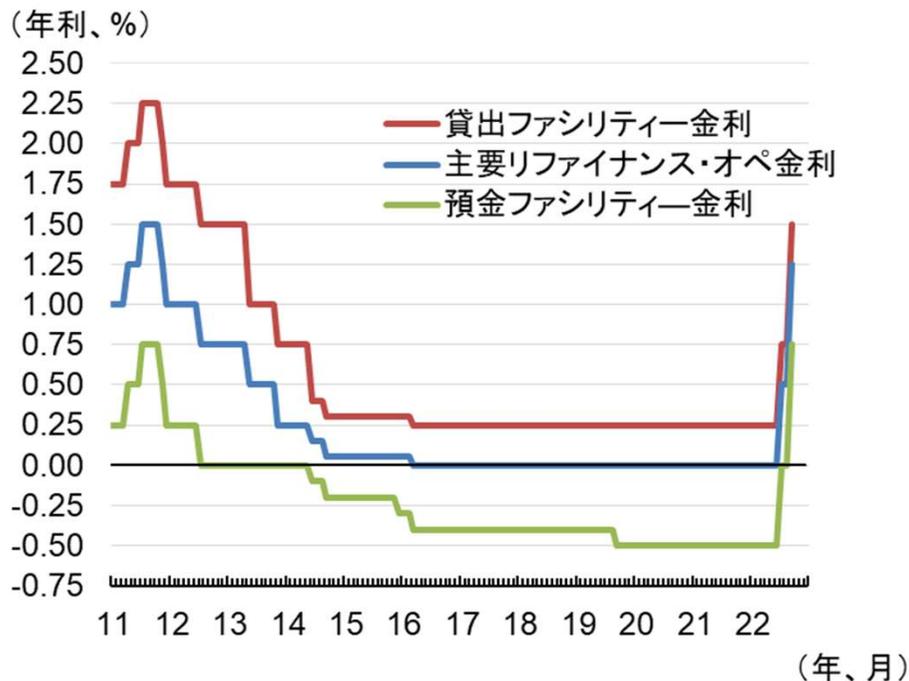


(出所)ユーロスタット

ユーロ圏景気概況⑥ ECBは9月理事会で利上げを実施

欧州中央銀行(ECB)は9月8日に定例の政策理事会を開催、3種類ある政策金利をそれぞれ0.75%ずつ引き上げた。ECBのラガルド総裁は理事会後の会見で、利上げの回数は今回を含めて2回以上、5回未満という見方を示した。次回の定例の政策理事会は10月27日の予定。

ECBの政策金利



(出所) 欧州中央銀行(ECB)

9月理事会での決定内容の概要

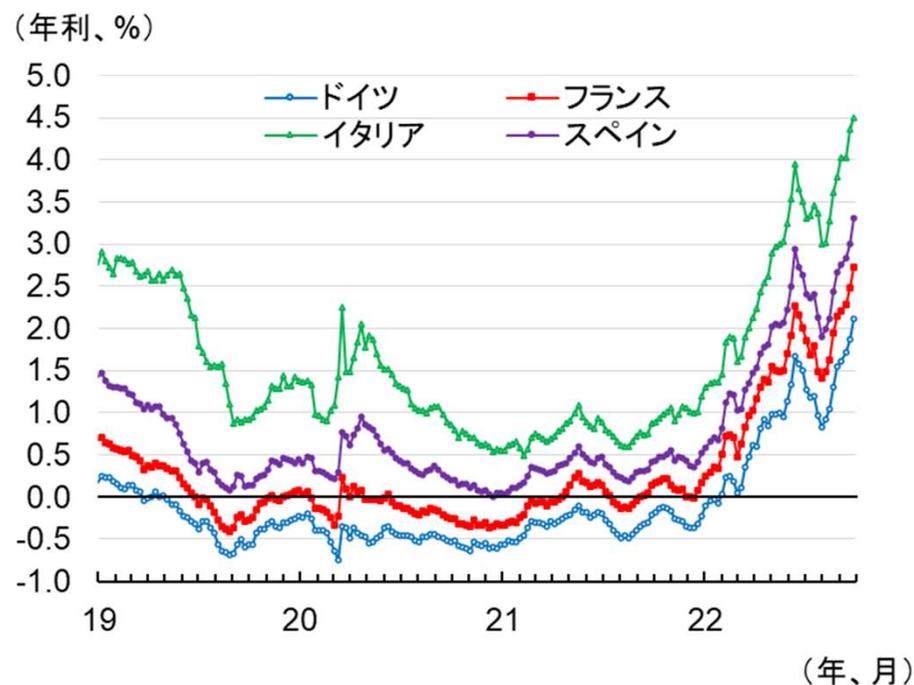
主な決定事項	内容
政策金利	<ul style="list-style-type: none"> ■各政策金利を0.75%ずつ引き上げ ・貸出ファシリティ金利 0.75%→1.50% ・主要リファイナンス・オペ金利 0.50%→1.25% ・預金ファシリティ金利 0.00%→0.75%
資産購入の再投資政策	<ul style="list-style-type: none"> ■資産購入プログラム(APP) ・再投資は金融環境の安定が確認された後に終了 ■パンデミック緊急購入プログラム(PEPP) ・再投資は2024年末で終了 ・各国中銀の出資比率に応じた資産購入などを適用せず、柔軟な購入を行う
市場分断防止策(TPI)	<ul style="list-style-type: none"> ■TPIの適用条件 ・EUが定める財政ルールへの順守 ・健全なマクロ経済運営(過剰な経常赤字の是正など) ■TPIの具体的な手段 ・流通市場での国債購入、金額は無制限 ・購入対象資産は国債が中心、社債も視野、満期1~10年 ・状況が改善すれば終了 ・経済の基礎的条件に基づく金利上昇には適用せず

(出所) ECB

ユーロ圏景気概況⑦ 金利は上昇、株価は下落

9月のユーロ圏主要国の長期金利は上昇した。米国発の世界的な長期金利の上昇の流れに加えて、欧州中銀(ECB)による追加利上げ、各国のインフレ対策での財政出動などが金利の上昇要因になった。一方、9月のユーロ圏の株価(Eurostoxx50)は下落した。世界景気の後退に対する懸念やECBによる利上げが株価を下押しした。

長期金利



(出所) ECB

株価 (Eurostoxx50)



(出所) STOXX

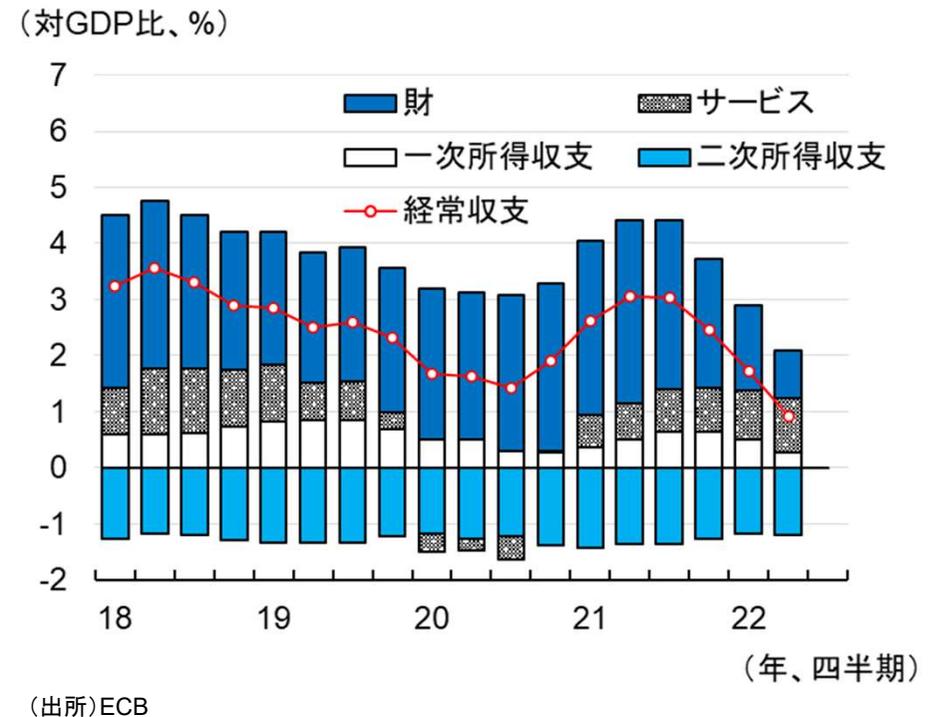
ユーロ圏景気概況⑧ ユーロは対ドル・対円で下落

9月のユーロ相場は対ドル・対円で下落。対ドルでは、米国が引き続き利上げを進める方針が確認されたことからユーロ安となった。対円では、政府・日銀による円買い介入を受けてユーロ安となった。経常収支は財貿易収支の黒字幅が徐々に縮小しており、実需面からのユーロ買い圧力は弱まっている。

ユーロ相場



国際収支

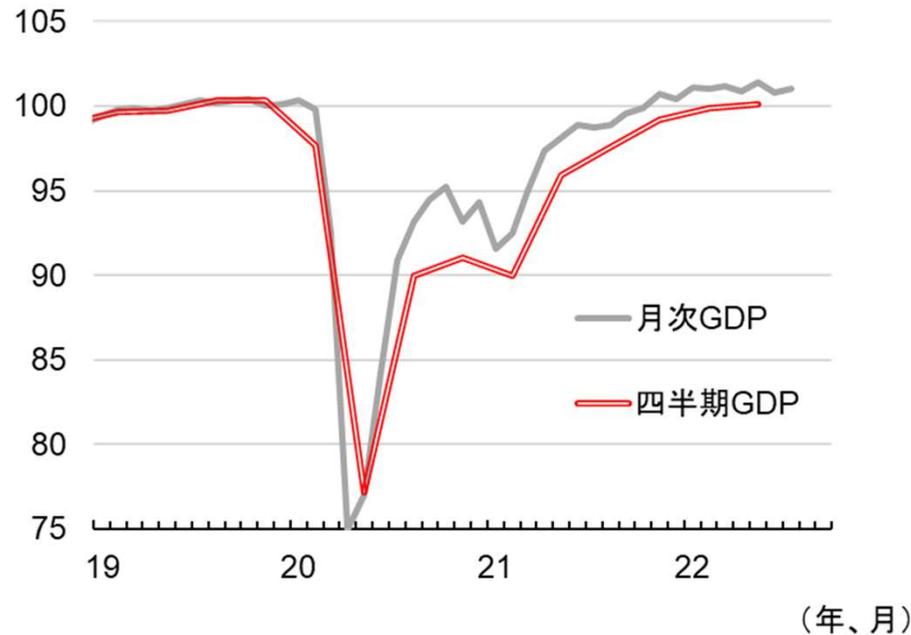


英国景気概況① 景気は足踏みしている

英国の4-6月期の実質GDPは前期比+0.2%と4四半期連続で伸びが鈍化した。産業別には、サービス業が堅調を維持し、また工業も復調したが、建設業が不調だった。また7月の月次実質GDPは前月比+0.2%と、再び増加したが、均した動きは横ばい。

実質GDP

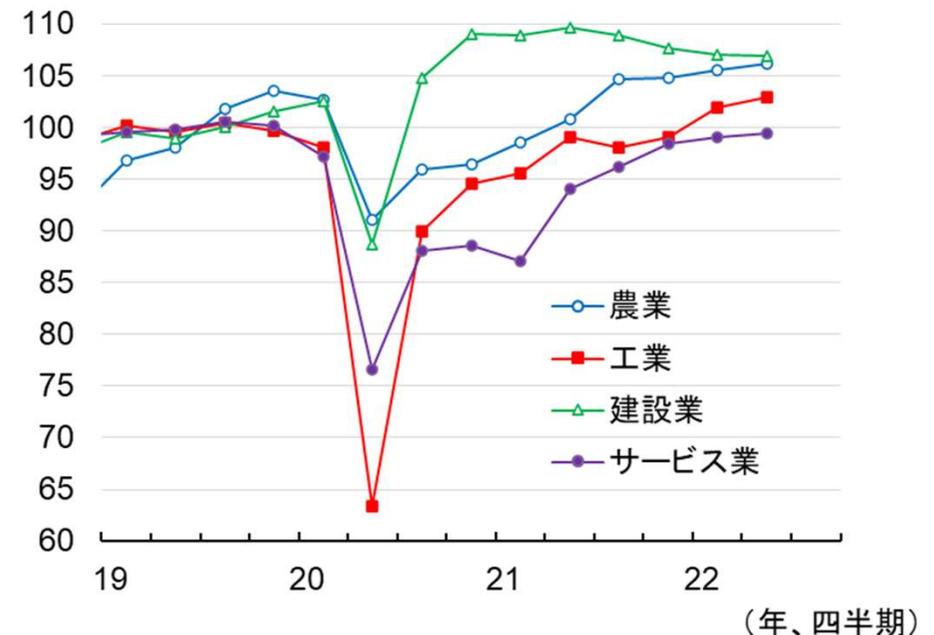
(2019年=100、季調済)



(出所)英国立統計局(ONS)

実質GVA(粗付加価値)

(2019年=100、季調済)



(出所)ONS

英国景気概況② 生産は足踏み

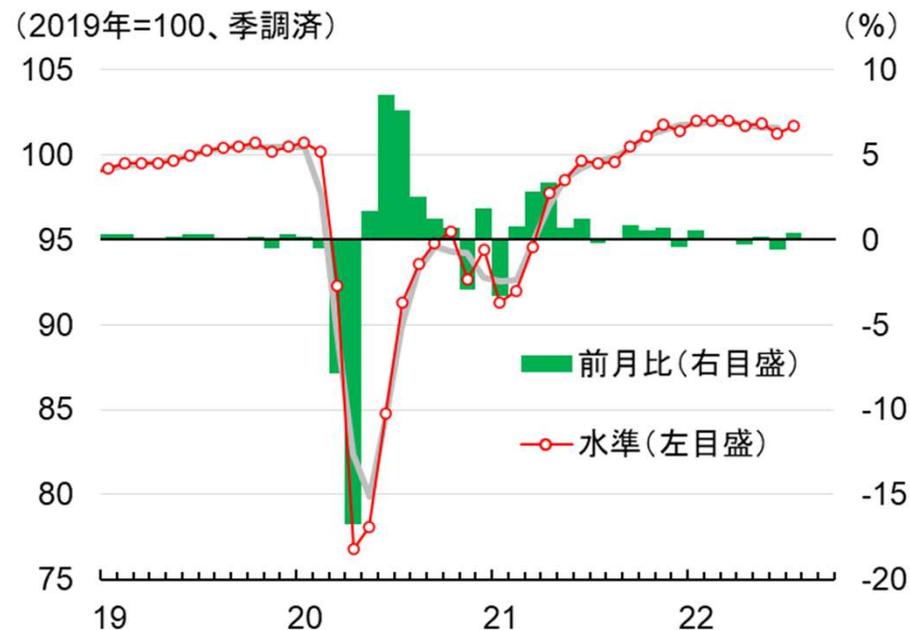
英国の7月の鉱工業生産は前月比▲0.3%と2ヶ月連続で減少したが、均した動きは横ばい。また同月の実質輸出も同+6.7%と再び増加したが、均した動きは横ばい。一方で、同月のサービス生産は前月比+0.4%と再び増加し、均した動きは横ばい。

生産と輸出



(注) 灰色線は3ヶ月移動平均
(出所)ONS (年、月)

サービス業生産



(注) 灰色線は3ヶ月移動平均
(出所)ONS (年、月)

英国景気概況③ 消費は低迷

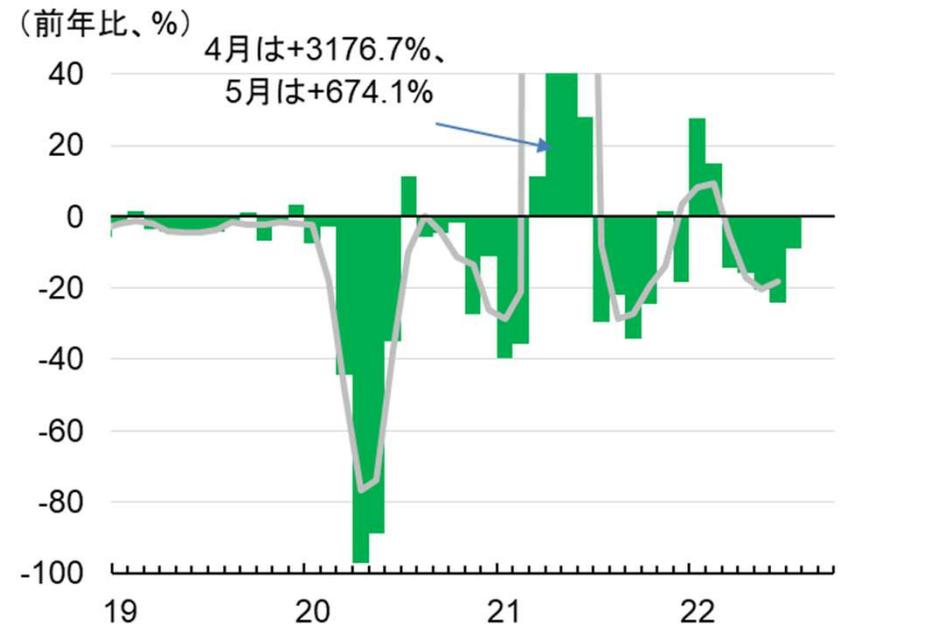
英国の8月の小売数量(除く石油)は前月比▲1.6%と5月以来の減少となり、均した動きも下向き。一方で、7月の新車販売台数(乗用車)は前年比▲9.0%(11.2万台)と4ヶ月ぶりにマイナス幅が縮小したが、依然として前年割れが続く。インフレの加速や金利の上昇が消費の下押し圧力になっている模様。

小売数量(除く石油)



(注) 灰色線は3ヶ月移動平均
(出所)ONS

新車販売台数(乗用車)

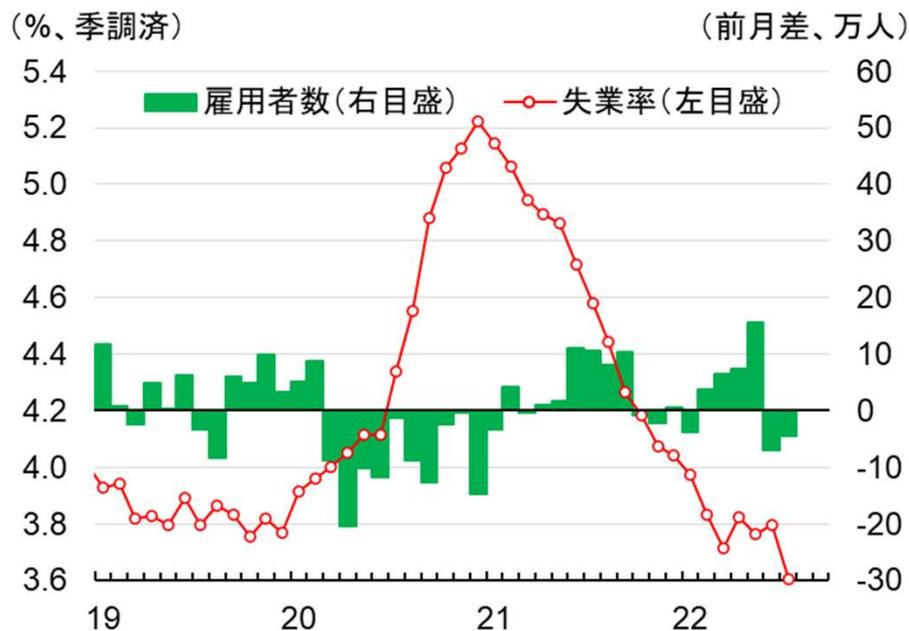


(注) 灰色線は3ヶ月移動平均
(出所)ONS

英国景気概況④ 雇用は改善が一服

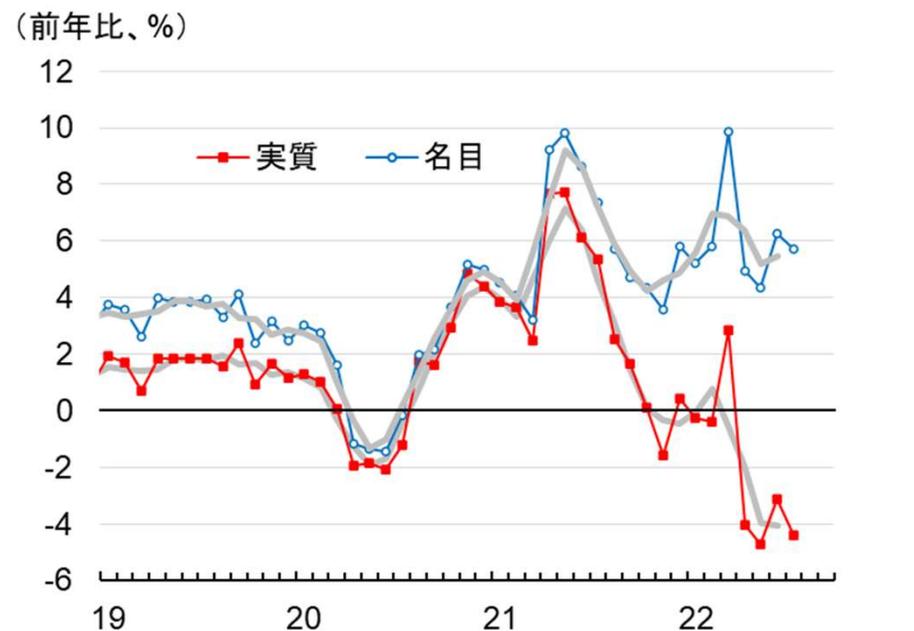
英国の7月の雇用統計(3ヶ月後方移動平均)では、失業率が3.6%と改善した一方、雇用者数は前月比4.6万人減と減少が続くなど、雇用は改善が一服している。均した賃金の動きは名目ベースだとプラス幅が横ばいだが、消費者物価で実質化した実質ベースだとマイナス幅が拡大しており、厳しさを増している。

雇用統計



(注) 3ヶ月間の平均値
(出所) ONS (年、月)

平均賃金(週給)

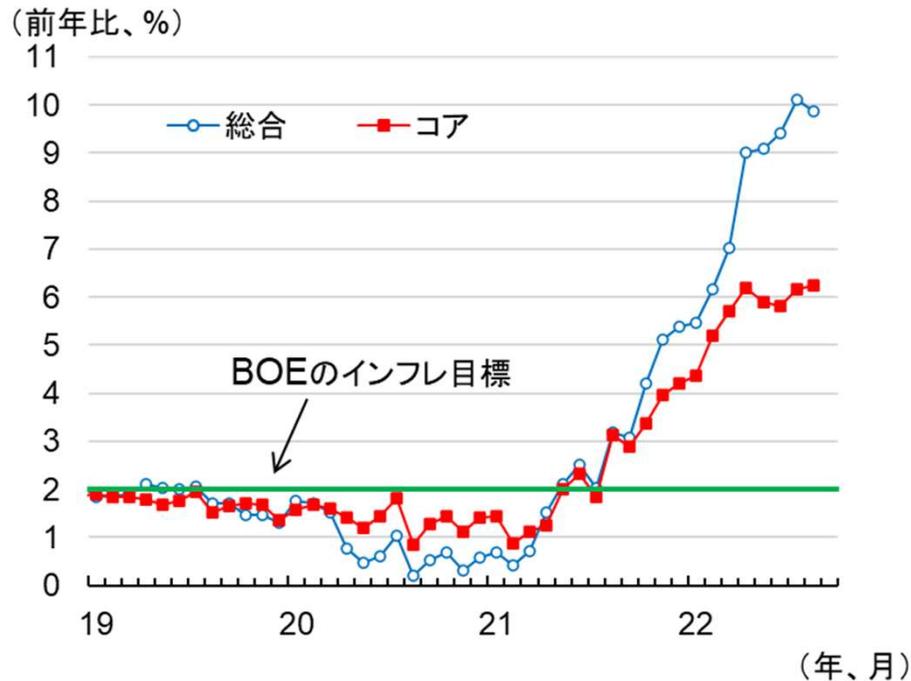


(注) 灰色線は3ヶ月移動平均
(出所) ONS (年、月)

英国景気概況⑤ 物価は高インフレが続く

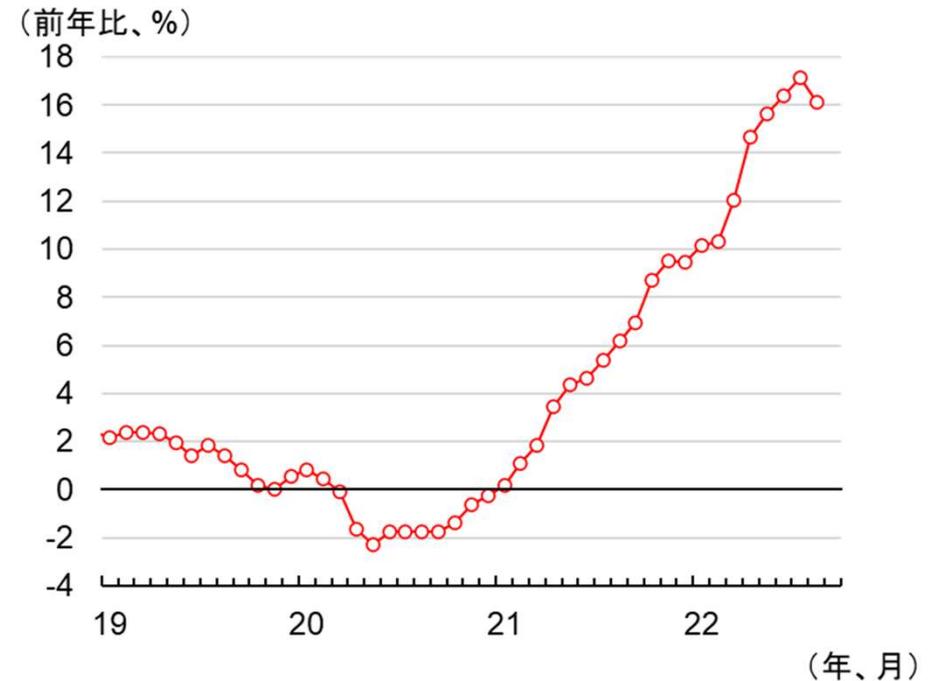
英国の8月の消費者物価は総合ベースで前年比+9.9%と、11ヶ月ぶりに上昇が減速も、高インフレが続く。同月の生産者物価も同+16.1%と伸び率が低下も、依然として高水準が継続。

消費者物価



(出所)ONS

生産者物価(投入価格、除く関税)

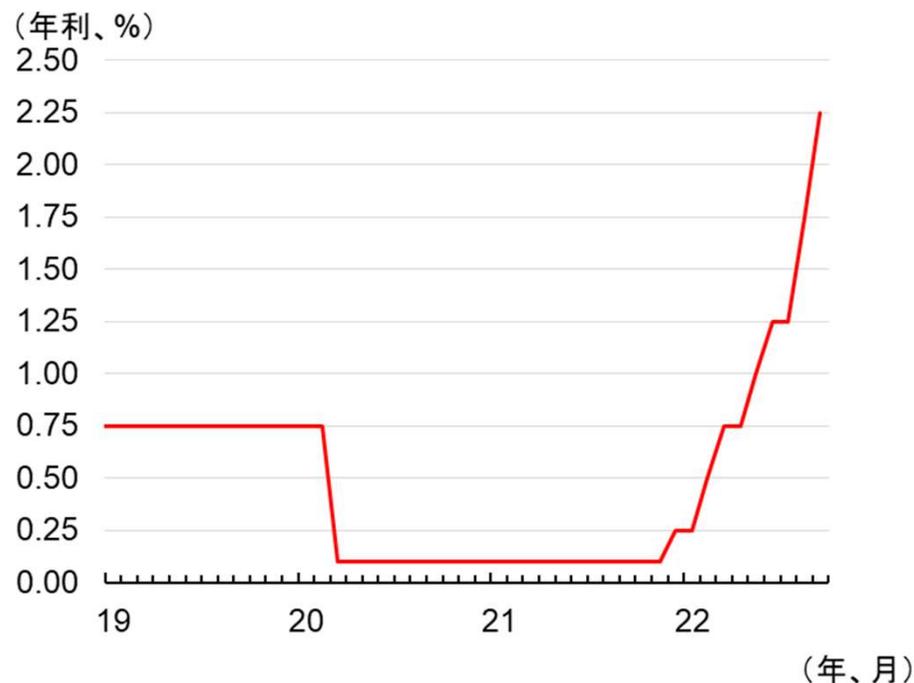


(出所)ONS

英国景気概況⑥ BOEは9月委員会で追加利上げを実施

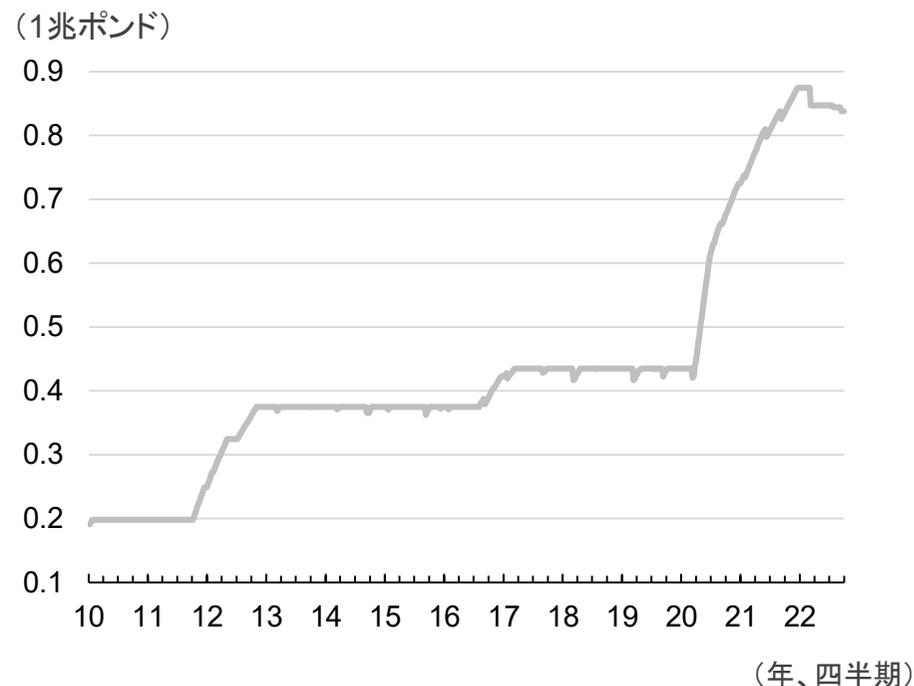
イングランド銀行(BOE)は9月22日(女王死去に伴い15日から1週間後ズレ)に定例の金融政策委員会(MPC)を開催し、政策金利(バンクレート)を0.5%引き上げ、年2.25%にした。また向こう1年間で保有する国債を800億ポンド売却することを決定したが、金利急騰を受けて開始時期を10月初から10月末まで延期した。次回MPCは11月3日を予定。

政策金利(バンクレート)



(出所)イングランド銀行(BOE)

英中銀の国債保有高

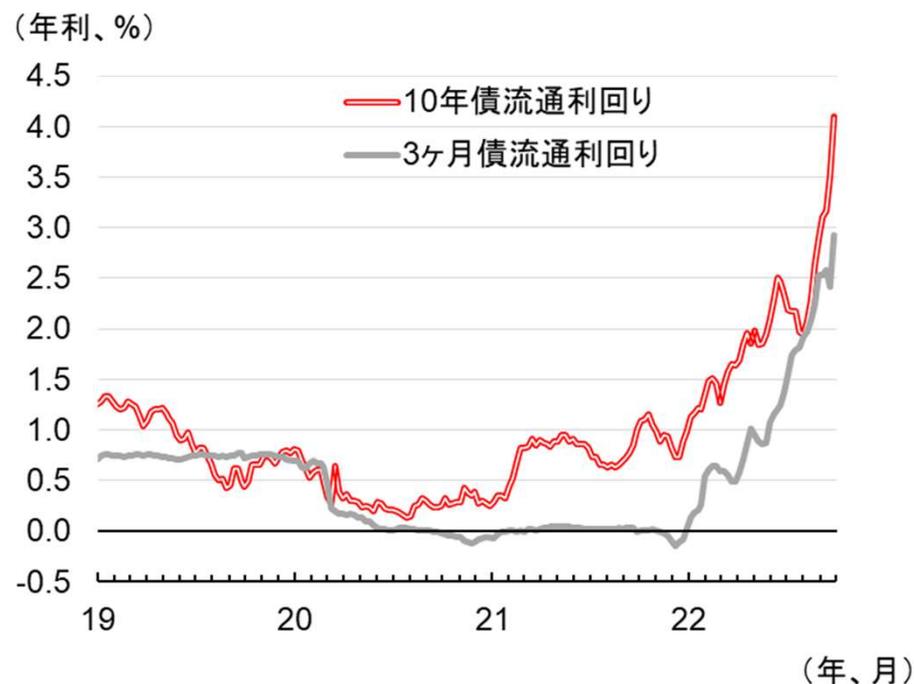


(出所)BOE

英国景気概況⑦ 金利は上昇、株価は下落

英国の9月の金利は上昇した。9月23日にトラス新政権が発表した大型経済対策が投資家の当初の想定を上回る規模となり、財政が悪化することへの懸念が高まった。一方で、9月の株価は下落した。米国発の株安の流れに加えて、トラス新政権の大型経済対策が投資家の失望を招き、株売りにつながった。

金利



(出所)BOE

株価 (FT30指数)

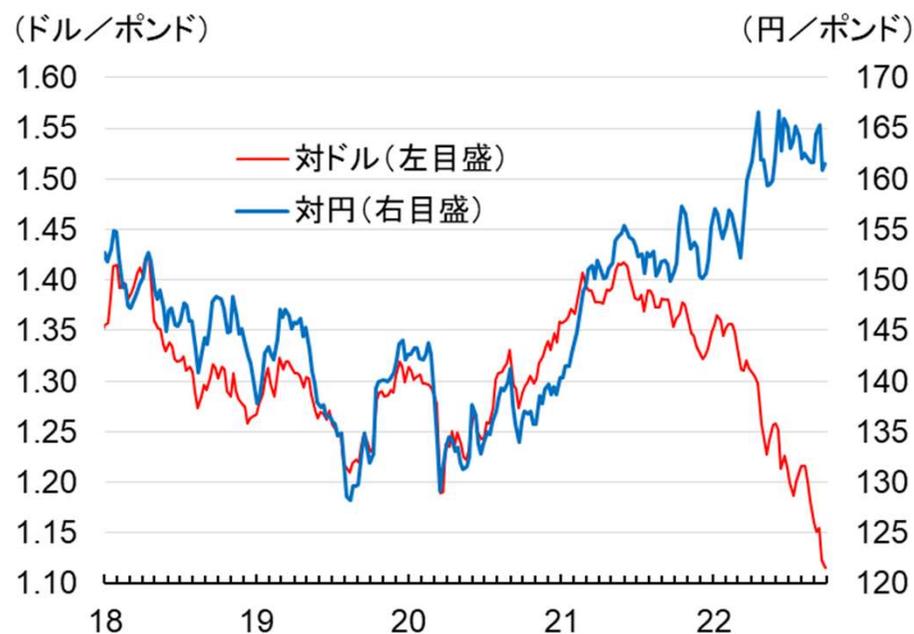


(出所)BOE

英国景気概況⑧ 対ドルで下落後に上昇、対円で横ばい

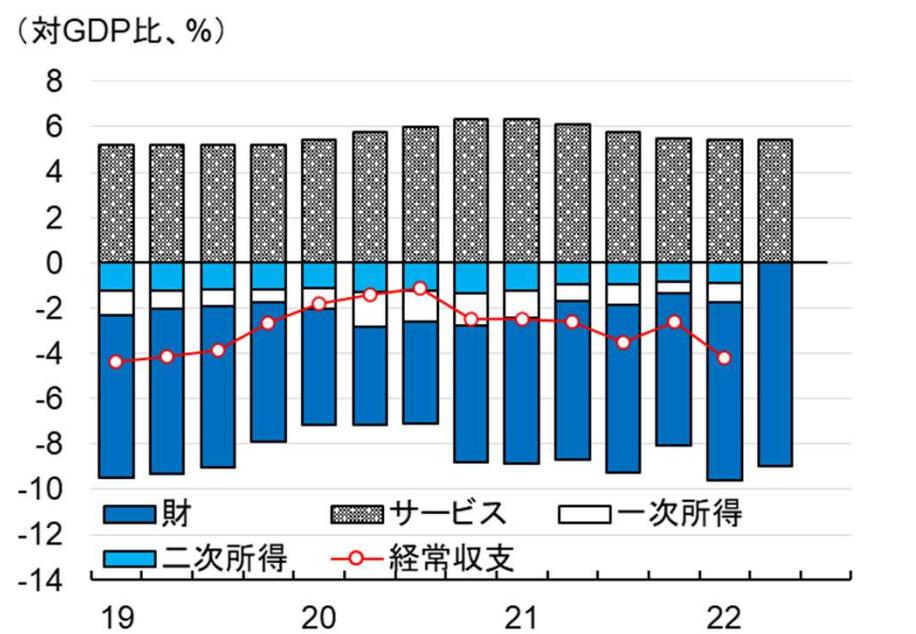
9月のポンド相場は対ドル、対円で下落。9月23日にトラス新政権が発表した大型経済対策が投資家の当初の想定を上回る規模となり、財政が悪化することへの懸念が高まり、ポンド売りにつながった。国際収支は、経常収支が赤字を拡大させており、実需面からのポンド買い支え圧力は弱い。

ポンド相場



(注)週次レート (年、月)
(出所)BOE

国際収支



(出所)ONS (年、四半期)

ご利用に際してのご留意事項を記載していますので、ご参照ください。

(お問い合わせ)調査部 土田陽介 TEL:03-6733-1628 E-mail:chosa-report@murc.jp

〒105-8501

東京都港区虎ノ門5-11-2 オランダヒルズ森タワー

- ご利用に際して -

- 本資料は、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要です。当社までご連絡ください